

ようごしゅう（しょきゅう）

<あ ぎょう>

・あいさつ

ひと と ひと が であつた とき や、わかれる とき に かわす れいぎてきな ことば や どうさです。

あいさつ は こみゆにけーしょん の きほん です。

(あ)あかるく、げんきに、(い)いつでも、だれにでも、(さ)さきに、すすんで、

(つ)つづけましょう。

・あつしゆく えいきゅう ひずみ

ちょうじかん ちから を くわえ て へんけいさせると、ちから を とりのぞいても もとには もどらなくなる こと を いいます。へんけいした りょう を ぱーせんと で あらわします。

・あつしゆく せいけい、こんぷれっしょん せいけい

みかりゅうごむ を あたためた かながた の きゃびていー に おいて、かながた を とじて、 かあつして せいけいします。

・あんぜん かくにん

けが や じこ を おこさない ために、さぎょう や どうさ を はじめる まえ に おこないます。

きかい を うごかす とき や はもの を つかう ときは まわりの ひと に ちゅうい します。

・あんぜん そうち、あんぜん きき

つうじょうじ に、むいしき に せつび を とめる そうち です。

「らいと かーてん を さえぎる」、「まっと すいっち に のる」、「りみっと すいっち が うごく」と せつび が とまります。さぎょう まえ に てんけん し、しさ こしょう を します。

あんぜん そうち を むこうに しては いけません。

・いおう

さるふあー(Sulphur) です。かりゅうざい として もっとも おおく しょうされます。

ごむ の とくせい を つくる うえで じゅうような はいごう ざいりょう の ひとつです。

・いざい

ことなる ざいりょう が まじっている もしくは ことなる ざいりょう の ことです。

ことなる ざいりょう が まじらない、ことなる ざいりょう を つかわない ように、くぶん ひょうじ を して、せいそう と ひろいこみ ぼうし を てってい します。

・いぶつ ふりょう

ごむざいりょう ではない ごみ など の ことなる もの が せいひん に こちゃくしたり、
こんにゆうしたり したも の です。

・いぶつ こんにゆう

ごむざいりょう や せいひん に はいごうざい いがいの もの が まじる こと です。

・いんなー

たいや の くうき や がす を ふうじこめる ぶざい で、おしだし かこう で つくります。

・うえんど、うえんどらいん

きやびていー の なかで ざいりょう の ながれ が ぶつかる ところ に できる せんじょう の
もよう です。うえんど の きょうど が ひくい と、そこから われる こと も あります。

・うおーみんぐ

せつび や かながた、だい(くちがね) を あたためる ことを いいます。

・うちだんどり

せいさん せつび を とめて おこなう だんどりがえ です。

・うちぬき かこう

ぬきがた と ひらいた の あいだ に ごむ の しーと を はさみ、ぬきがた を うえ から
おしあて て かたち を うちぬく かこう です。

・うちぬきば

しけんへん を うちぬく ための はもの で、いろいろな かたち が あります。

・えあー ふりょう

ざいりょう に くうき が はいり、ひょうめん が ふくらんだ もの で なか は くどう です。

・えきたい ふうにゆうしき ぼうしんごむ

ちゅうくう の ごむ に えきたい を いれて、えきたい の ねんせい を りょうした ぼうしん
ごむ です。

・えらすとまー

「ちから を くわえる と へんけい するが、ちから を とりのぞく と もと の かたち に
もどる」せいしつ の「だんせいたい」の ことです。

・えんじん まうんと

じどうしゃ ぶひん に おおく つかわれる ぼうしんごむ です。

えんじん を ささえて しんどう を ちいさくする と ともに しんどう が つたわる こと を
ふせぎます。

・おいる

ごむ を やわらかくし、 はいごうざい の ぶんさん を よくして、 ねり、 あつえん、
ちゅうにゅう、 おしだし などの かこうせい を よくします。

ぶりーど や いこうせい に ちゅうい します。

・おうりよく

しけんへん に くわわる ちから を しけんへん の だんめんせき で わった あたい です。

・おーとくれーぷせいけい

たいあつかん の なかに かあつ ぐうき を おくりこみ、 ぐうき を かねつして かりゅう
します。

・おしだし かこう

ごむざいりょう を だい(くちがね) へ あつりよく を かけて、 れんぞくてきに しょうてい
けいじょう にする かこうです。

いっぱんてきな こうてい では おしだされた ごむ は かりゅう そう を とおり、 ひきとり
そうち で れいきやく こうてい、 かつと こうてい に おくられます。

すくりゅー の かいてん そくど と ひきとりそうち の ひきとり そくど は ひんしつ に
おおきく えいきょう します。

かつと き の はもの による せつそう じこ に ちゅうい します。

・おせん

ねつ や あつりよく により、 ごむ から だた はいごうざい が あいてぶつ を よごす こと
です。

かぐに ついた ごむ の すべりどめ や ごむまっと など により ゆか が へんしょく したり、
じどうしゃ の どあごむ により しゃたい の とそう が へんしょく することが あります。

・おふせんたー ふりょう

たいや の ぶざい が ちゅうしん を はずれて、 かたよっている こと です。

・おーりんぐ

だんめん が えんけい(おーのかたち) を した りんぐ けいじょう の ぱっきん です。

<か ぎょう>

・かーかす

たいや の こっかく の ぶざい です。

ごむ で こーていんぐ した せんい や すちーる わいやー を たばねて かさねます。

・かーぼん ぶらっく

せきゆ や がす を もやした すす(たんそ の びりゅうし) で、くろいろ の こまかな つぶ です。

ごむ に まぜる と つよく、すりへり にくく なり、にっこう による れっか も ふせぎます。

とりあつかう ばしょ は かんき を して、ぼうじん ますく を つけて さぎょう します。

・がいかんけんさ

5かん(め、みみ、はな、した、ひふ) を つかって ひんしつ を はんてい する かのう けんさ です。がぞう しょり により きかいてき に はんてい する ほうほう も あります。

※ふりょうひん を そのば で てなおし しては いけません。

・かいぜん

げんじょう に まんぞく しない で、じぶん で もんだい を みつけて、より よい じょうたい へ へんか し つづける ことです。

・かかりゅう、かりゅうもどり

さいてきかりゅう を こえた かりゅうじょうたい です。やわらかくなり、きょうど も さがります。

・かき げんきん

ごむ や はいごうざい は もえやすく、きえにくい ので、ほかん ばしょ や しょう ばしょ に ひ が できるもの を もちこんでは いけません。

・かきょう

ごむ を かがく はんのう で はし を かけた ように つないで、せいしつ を へんか させる ことです。

・かけ ふりょう

けいじょう の いちぶ が なくなっている こと です。

とくに かどぶ が かけやすい です。

・かけふだ

せつび の てんけん や しゅうり を おこなっている こと を しめす ひょうしき(ふだ) です。

せつび の でんげん を いれる など の そうさ を しては いけません。

・かこう じょうけん

ひょうじゅんしょ に きめられた おんど や じかん、あつりよく など です。

あんぜん、ひんしつ、せいさんせい を さいてき に する すうち なので、かつてに かえては いけません。

・かこうせい

ごむ や はいごうごむ の ごむよう かこうき での かこう の しやすさ です。

・がすけっと

せいし する めん に つかう しーる です。

・かた

ごむ の りゅうどうせい を りょうして、おしひろげる、ながす、つうかさせる などし、
れんぞくして どういつ けいじょう に かこうする ものです。

おしだしかこう : だい(くちがね)

せいけいかこう : かながた (うわがた、したがた、なかがた)

こんねりあつえんかこう : ろーる

ふくごうせきそうかこう : どらむ、しんがね

※かた が しまる とき や うごく とき には、ぜったいに て を いれては いけません。

・かたずれ ふりょう

かながた の あわせ が ずれて、せいけいひん が へんけい しています。

・かたづけ

さぎょう が おわったら、つかった もの は きれいに そうじ を して、もとの ばしょ
(てい いち) に もどします。その とき に でた ごみ は ぶんべつ を して すてます。

・かたない の よごれじょきよ

かりゅう による がす や ごむかす が かた の ひょうめん に ふちゃくして
よごれます。

よごれ は だっけいさぎょう、かこうひん の がいかん や すんぽう を そこないます。

かた に きず を つけないように、つぎの ぶい の よごれ を じゅうてん に
とりのぞきます。

おしだしかこう : みかりゅうごむ の りゅうろ

せいけいかこう : みかりゅうごむ の りゅうろ および きゃびてい

こんねりあつえんかこう : ろーる、らばーよけ の ひょうめん

ふくごうせきそうかこう : どらむ、しんがね の ひょうめん

・かた の てんけん

ひんばん や ひんめい を かくにん します。

きず や よごれ、ごむかす の こちゃく が ないこと を かくにん します。

・かたよごれ ふりょう

きやびてい に こちゃくした よごれ の あと で、せいひん が へこんで います。

てんけん が おわった よい かながた を しんちょう に あつかいます。

・かながたせんじょう

かながたない の よごれ を やくひん で あらったり、かたい ちいさな つぶ を ぶつけて はがし たり します。

かながた が せいけいき に とりついた じょうたい で、せんざい による ふきとり や そうじごむ を しようする ことで せんじょう を すくなくする ことが できます。

・かりゅうかん

まるい つつがた の たいあつかん です。かん の なかに みかりゅう の かこうひん を いれて、かあつした じょうき や かねつした くうき(がす) で かりゅうします。

・かりゅうざい

かねつ など により、かきょうする はいごうざい です。

・かりゅうしけん

みかりゅうごむ に ねつ や ちから を くわえて、かりゅうおんど や かりゅうじかん など の さいてき かりゅう じょうけん を ひょうかする しけん です。

・かりゅうせつちやく

みかりゅうごむ と いんさーと(きんぞく や ぷらすちつく の ぶひん) を、かた で ねつ と あつりよく を かけて かりゅうして せつちやくする こと です。

あらかじめ いんさーと の ひょうめん に せつちやくざい を ぬります。

・かりゅうそくしんざい

かりゅうじかん の たんしゆく、かりゅうおんど の ていおんか、かりゅうざい の げんりょう、せいひん の ぶっせい こうじょう を はかります。

・かりゅうぶそく

さいてきかりゅう に とうたつしていない かりゅうじょうたい です。そのぶぶん が ふくらんで、 ないぶ に ちいさな きほう が できたり、かたさ が でない など の ふぐあい と なります。

・かれんだー

たいや で ごむ の しーと と でいっぴんぐこーど を はりあわせる かこう です。

・かれんだー しゅうしゆく

かれんだー かこう で うすく のばされた ごむ が のばされた ほうこう に たいして ちぢむ こと です。

・かれんだーたん

たいや の かれんだー した ぶざい を ろーるじょう に まいた もの です。

・かれんだーろーる き

2ほん いじょう の ろーる の あいだ に ざいりょう を いれて かいてんさせ、うすく のばします。

・がんりょう

ごむざいりょう に いろ を つける はいごうざい です。

いろいろな いろの ごむ(からーごむ) は、 かーぼんぶらつく の かわりに ほわいと かーぼん など で ほきょうして、 がんりょう で いろ を つけます。

・きず ふりょう

かた の きずあと や ばりきり はさみ など による きりきず や すりきず が げんいん で ふりょう と なります。

・きゃびていー、きゃび

かながたない の せいひん を かたどった かうかん です。

1つ の かながた に いくつか の きゃびていー を つくり、 1しょつと で たくさんの せいけいひん を つくります。

・きゅうていし そうち

ろーるき での さぎょうで ひじょうじ(きんきゅうじ) に、 いしきてき に ろーる の かいてん を とめる ための そうち です。

「ろーぷ すいっち を ひく」、「ばー すいっち を おす」、「ぼーど すいっち を ける」と ろーる の かいてん を とめること が できます。

・きゅらすと めーたー、れお めーたー

ごむ の こうか を そくていします。

ごむ が ただしい はいごう か、 ぶんさん ふりょう が ないか、 さいてきかりゅう で あるか を はんてい できます。

ねり の ろっと ごと に そくてい して、 ごうひ を はんてい します。

・きんぞくせい ちよくじゃく、こうじゃく、かなじゃく

そくてい ぶつ に みつちやく させて、 め の いちを しょうめん にして あたい を よみとります。

0 が はし に あり、 すりへっている ばあい は ここ を きてん と しては いけません。

さいしょう めもり いか は めぶんりょう で よみとります。

・くぶんひょうじ

しかかりひん と かこうすみひん、 みけんさひん と けんさすみひん、 りょうひん と ふりょうひん など、もの の じょうたい を くわけ して ひょうじ します。

・ぐりーん たいや

たいや の かーかす、 べると、 とれっど、 びーど など の ぶざい を はりあわせて つくった たいや の げんけい です。

「なま たいや」とも いわれ、 かりゅうする まえ の たいや です。

・ぐりーんきょうど

げんりょうごむ や みかりゅうごむ の つよさ で、 ひっぱり しけん により ひょうかします。
かりゅう まえ の かこうせい に えいきょうします。

・くれーじんぐ

ひかり により れっかして、 ごむ の ひょうめん に おおくの ちいさな ひびわれ が できた じょうたい です。

・けいじょうしあげ

せつび による かこう で つくった かこうひん を せいひん に するために おこなう かこうです。

あとこうてい の ようきゅう に おうじて、 きめられた すんぽう および けいじょう に します。

おしだしかこう : ながさ さいだん(せつだん)

せいけいかこう : さいだん や ばりとり(てむしり や こうぐ による せつじょ)

こんねりあつえんかこう : しーとはば さいだん

ふくごうせきそうかこう : さいだん、 じょいんと てなおし

・げーと、 ちゅうにゅうげーと

みかりゅうごむ が きゃびていー に はいる いりぐち の つうろ(りゅうろ) です。

・けんさいん

「けんさいん しかく にんてい ひょうか」に ごうかくして とうろく された ひと です。

ていき に ひょうか を おこない、 しかく を こうしん します。

・げんど みほん

けってん の「どこまで を ごうかく と するか」を しめす かこうひん の みほん です。

・こうてい ない けんさ

じぶん が かこうした もの の がいかん や すんぽう などの できばえ を かくにん します。

・こうど

ごむ の かたさ は「こうど」として すうち で あらわします。

すうち は そくていき の しゅるい により ことなります。

・こうどけい

はり や はんきゅう の かたち を した とつきぶつ による へこみりょう を はかります。

はかる せいひん に おうじた こうどけい を せんでいします。

こうどけい を せいひん に あて、まうえ から せいひん に おしつけます。

こうどけい と せいひん が あたって から、いってい じかんご の あたい を
よみとります。

・5S

①せいり(Seiri) : いるもの と いらないもの を わけて、いらない もの を すてます。

②せいとん(Seiton) : とりだしやすい ように、きめられた ばしょに おいて ひょうじします。

③せいそう(Seiso) : きれいに そうじ を しながら、みのまわり を てんけんします。

④せいけつ(Seiketsu) : きれいな じょうたい を つづけます。

⑤しつけ(Shitsuke) : きれいに つかう こと を あたりまえ と します(しゅうかんづけ)。

・こくさい ごむかたさ、IRHD

しけんへん に とつきぶつ を いってい の ちから で おしつけた とき の へこみりょう
です。

はかるもの の かたさ に より、とつきぶつ の おおきさ と おしつける ちから を
かえます。

・こなづけ

ひょうめん の ねんちゃく を ふせぐ ために、こな を ふりかける こと です。

・ごみ の ぶんべつ

しょくば の きまり に したがって ごみ を わけて すてます。

・ごむ の しゅるい

てんねん ごむ : ごむ の き から とれる じゅえき(らてつくす) から つくられます

ごうせい ごむ : せきゆ(なふさ) から つくられます

・ごむ の せいしつ

へんけい しても もと の かたち に もどります。(のび ちぢみ します)

おんど が たかい と やわらかく、のび やすい です。

ちょうきかん つかう と かたくなり、のび や ちぢみ が ていか(れっか) します。

しょうげき や しんどう を ぶんさん(きゅうしゅう) します。

みず や おと の もれ を ふせぎます。

・ごむ の ようと

てんねん ごむ : たいや、はきもの、ほーす、べると など に つかわれます。

ごうせい ごむ : いろいろな ごむ が あり、さまざま な ようと に つかわれます。

・ごむこ

ごむせいひん を くだいた もの で、その おおきさ により よびな が ことなります。

ごむびふんまつ : 0.1mm いか

ごむふんまつ : 0.1mm~1mm

ごむペれっと : 1mm~10mm

ごむちっぷ : 10mm~50mm

・ごむししょう

じょうげ の こうぞうぶつ の あいだ に せっちし、じょうぶ を ささえる とともに、おもに
じしん など の よこゆれ を きゅうしゅう する ごむせいひん です。

・ごむびき

ごむ を ぶざい に がんしんさせる ことや ひょうめん に ひふくする こと です。

・ごむびきふ

ぬの に ごむ を ぬりかさねて かりゅうした しーと です。

・ごむらいにんぐ

ごむ を こんくりーと や きんぞく に せっちゃくし、ひょうめん や ないめん を おおう こと
です。つかわれかた に てきた ごむ を えらんで、ふしょく や まもう から まもります。

・こんねり あつえん かこう

こんねり : げんりょう ごむ に いろいろな やくひん を きんいつ に ぶんさん させます。

あつえん : こんねり された ざいりょう を うすく のばします。

ろーる そうち の かいてん による まきこまれ じこ に ちゅうい します。

・こんねりき

まぜる、つぶす、ねる、つく など を どうじに おこない、ごむ と はいごうざい を
きんいつ に ぶんさんさせます。

・こんぱうんど、はいごうぶつ

ごむげんりょう に はいごうざい を まぜた みかりゅうごむ です。

<さ ぎょう>

・さーじんぐ、みやくどう

ざいりょう の おしだし に むら が あり、だい から でた おしだしひん が おおきななみ (surge) の ように うねる こと です。

おしだしひん の けいじょう や すんぽう が ばらつきます。

・さいせいごむ

かりゅう した ごむ に ねつ や ちから を くわえたり、やくひん で しよりしたり して かそか した ごむ です。

・さいだん(せつだん)

ざいりょう や かこうひん を れんぞくして ちよくせんてき に きります。

かた で きりぬいたり、きよくせん で きる ことも あります。

・さいてきかりゅう

ごむせいひん に ようきゅうされる せいしつ を まんぞくする かりゅうじょうたい です。

ただし ざいりょう を てきせつな じょうけん で かこうします。

・さいど、さいどうおーる

くるま を ささえて たわむ たいや の ぶざい で おしだし かこう で つくります。

せいけい かこう で しょうひんめい や さいず を いれます。

・ざいりょう の てんけん

ひんめい や ばんごう が ただしく、しょうきげん いない で、しけん に ごうかく している こと を かくにん します。

かたち や すんぽう が ただしく、いぶつ の こんにゅう が ないこと を かくにん します。

てんけん が おわった まちがいのない ざいりょう を しょう します。

・ざいりょう の よびかた

ざいりょう は かこう こうてい で つかう けいじょう により、いろいろな よびかた が あります。

せいけい かこう : ばうえるだま、たんざく (こんぷれっしょん せいけい)

しーと、ざぶとん (とらんすふあー せいけい)

りぼん (いんじえくしょん せいけい)

おしだし かこう : りぼん、ペれっと、ねりきじ、てーぷざい

・ざいりょうきょうきゅう、ざいりょうとうにゅう

かながた や かこうき の きめられた ぶい に ざいりょう を いれます。

せいさん に あわせて とぎれること なく きょうきゅう しなければ いけません。

・さきいれ さきだし

ほかんした ざいりょう や かこうひん は、ふるいもの から じゅんばん に つかいます。

さき に いれた もの を さき に だす、FIFO(First-In First-Out) と いわれます。

・さぎょう の ころがまえ

あんぜん、ひんしつ、せいさんせい を よくすること を ころがけて ください。

①あんぜん な さぎょう

②かくじつ な さぎょう(よい ひんしつ)

③じゅくれん した さぎょう(たかい せいさんせい)

・さぎょうば

2S(Seiri, Seiton) が きほん です。

①せいり : いるもの と いらぬものを わけて、いらぬものを すてます。

②せいとん : いるものを とりだしやすい ように、きめられた ばしょに おいて ひょうじ
します。

・しーる

もの と もの の あわせめ や つぎめ から えきたい や きたい が そとへ もれる こと
や そとから なか へ はいること を ふせぐ せいひん です。

・じこうぐ

じぐ と こうぐ を あわせて じこうぐ と いいます。

じぐ : かこう や くみたて など を てだすけし、どうさを あんない する ものです。

こうぐ : かこう する どうぐ や きかい です。

おしだしかこう : めりーかったー、らしゃばさみ、さいだんじぐ など

せいけいかこう : にっぱー、はさみ、うちぬきじぐ など

こんねりあつえんかこう : ないふ、はさみ、さいだんじぐ、はかり など

ふくごうせきそうかこう : ほっとめす、すてっちゃーろーらー、かったーないふ、
はさみ、はんどろーらーなど

・じこうぐ の てんけん

じこうぐ が こわれて いたら、しごと ができません。けが を すること も あります。

は の かけ や うごき を かくにん します。

てんけん が おわった よい じこうぐ を ただしく つかいます。

・じこうてい かんけつ

「わるいものを まえ の こうてい から うけとらない、じぶん の こうてい で つくらない、あとの こうてい に おくらない。」という、せいさんせい こうじょう の とりくみ です。

・しき こしょう(ゆびさし こしょう)

あんぜん の いしき を たかめて、まちがい や みす を なくし、じこ を ふせぐ ための とても よい しゅだん です。

てんけん する かしょ を しっかり みて、ゆび を さして、おおきな こえ で
「〇〇〇 よし！」

・じどうしゃ ぶひん

ごむ せいひん は おおくの じどうしゃ ぶひん に つかわれています。

せいけい かこう せいひん

ぼうしん ごむ : えんじん まうんと、さすぺんしょん ぶっしゅ、だんぱー など

しーる ごむ : おいる しーる、こねくたー しーる、えんじん かばー など

おしだし かこう せいひん

ほーす : ねんりょう けい、みず けい、くうき けい など

しーる ごむ : うえぎーすととりっぷ、がらすらんちゃんねる、とらんくりっど など

ふくごう せきそう かこうひん

たいや : ちゅーぶれす たいや、すたっどれす たいや、らんふらっとたいや など

でんどう べると : Vべると、たいみんぐ べると、へんそく べると など

・しみだし

ひょうめん を ひふくした ごむざいりょう が うらめん に にじみでる こと です。

・しゃくかいざい

ねるちから や ねつ により ごむ が やわらかくなる ことを はやくする はいごうざい です。

・しゃしゅつせいけい、いんじえくしょんせいけい

みかりゅうごむ を しゃしゅつせいけいき で かねつして とじた かながた に あつにゅうして せいけいします。

・じゃすと いん たいむ(Just-In-Time)

ひつような もの を、ひつような とき に、ひつような かず(りょう) つくる こと です。

・じゅうてんりつ、ふいるふあくたー

こんねりき の ようりょう に たいする、とうにゅうする ざいりょう の ようせき の ひりつ です。

・じょいんとてなおし

たいや の かーかす、べると、とれつど など の かく ぶざい を どらむ に まきつけて、
たんぶ を あっちゃく した ぶぶん の さゆう の ずれ や うき を しゅうせい します。

・じょいんとれすばんど

いくつかの たいやこーど を とっぴんぐ した てーぷじょう の ぶざい です。
くうきいり たいや に もちいられ、ふくらみ けいじょう を ちょうせいして、こうそく
たいきゅうせい を こうじょう させたり、のいず を ていげん します。

・しろう きげん

せいじょうな ぶっせい や かこうせい を たもつこと が できる きかん です。
たいよう の ひかり、ねつ や すいぶん に より れっか します。

・しよつと

かながた による せいけいかこう さぎょう の 1かいぶんの こと です。

・すくらつぶごむ

ふよう になった ごむせいひん や みかりゅうごむ です。
せいぞうかてい で はっせいした くず、ふりょうひん や ばり など が あります。

・すくりゅー

おしだしき の らせん の みぞ がある ぶひん です。
かいてんして みかりゅうごむ を ねりながら まえへ おしだします。

・すこーち

ごむざいりょう が ほかんちゅう など かりゅうこうてい の まえに かりゅうしてしまう こと
です。

だんせい が まして、しよていの けいじょう に かこうすること が できなくなります。

・すこーちたいむ、むーにーすこーち

ごむはいごうぶつ は かねつすると やわらかくなり、ねんど が さがります。
さらに かねつすると かりゅうして かたくなり、ねんど が あがります。
ねんどの さいていち から しよてい の ねんど に あがった じかんの こと です。

・すていっきー

ごむ が べとついている こと です。

・すとれーなー

ごむざいりょう に ふくまれる はいごうざい の かたまり や いぶつ を とりのぞく そうち
です。

・すねり

ごむ を だんせい が つよい じょうたい から かそせい が つよい じょうたい に します。
ねる ちから と ねつ で やわらくして、はいごうざい を まざりやすく します。

・すぱいだーらいん

ごむざいりょう が おしだしき の なかで すぱいだー により さえぎられた あと が
おしだしひん に のこった すじ(しま もよう) の こと です。

ざいりょう の ゆうごう(とけあう) ふりょう です。

すぱいだー とは だい を ささえる ぶぶん で、かたち が くも に にている ので
「すぱいだー」と いいます。

・すぱいらるほーす

ないそうごむ の そとがわ に ほきょうざい(いと や きんぞくわいやー) を らせんじょう に
まきつけた ほーす です。

・すぴゅー

たいや の とれっど や しよるだー、さいど に ある ひげ の ような いとじょう の ほそい
ごむ を「すぴゅー」と いいます。

かながた の くうきぬき の ちいさな あな から くうき が ぬける さいに、ごむ が
ふきだし(spew)て できます。

・すぷーる

しゃしゅつせいけいき から でた みかりゅうごむ が かながたない に ながれこむ さいしょ
の つうろ(りゅうろ) です。

・すぽんじごむ

れんぞくきほう の ごむ です。

・すんぽう けんさ

せいひん の おおきさ が きじゅんしょ どおりに つくられているか、そくていき を
しようして かくにんする さぎょう です。

そくていする こうもく と おおきさ および こうさ に てきした、そくていき を せんてい
します。

・すんぽう ふりょう

ながさ、あつみ など の すんぽう が きめられた あたい から はずれている もの です。

・せいけい かこう

あたためた かながた の なか に ざいりょう を いれて かたち を つくります。

こんぷれっしょん(ちよくあつ)、とらんすふあー(ちよくあつちゅうにゅう)、いんじえくしょん(しゃしゅつ) の せいけい かこう ほうほう が あります。

こんぷれっしょん では ざいりょう の おきかた が ひんしつ に えいきょう します。

かながた の かいへい による はさまれ じこ に ちゅうい します。

かながた の ひーたー が きれると おんど が あがらず、かりゅう ぶそく に なります。

・せいけい しゅうしゅく

かながた で あっしゅくされた あつい ごむ が かながた から でて、ひえて ちぢむ ことです。

・せいそう

せいそう は きれい に する だけ でなく、つぎの ような もくてき が あります。

①いじょう に きづく(てんけん)

②よごれ や いぶつ こんにゅう を ふせぐ(ひんしつ)

③すべる、つまずく を ふせぐ(あんぜん)

・せきそうごむ

ごむ と ほかのざいりょう を かさね あわせて、かりゅうせつちやく した もの です。

・せつちやくざい

もの と もの を つないで ひとつ に する ざいりょう です。

ごむかこうひん の ひょうめん の あぶら や よごれ を とりのぞき かわかします。

ひょうめん を あらくしたり、したぬりざい を ぬると うまく せつちやく できます。

・せる

はっほうして できた きほう で、はしら(こっかく) と かべ(まく) で かこまれた ちいさな ぐかん の こと です。

・せんたーずれ

たいや の ぶざい の つなぎめ が さゆう に ずれています。

かーかす や べると を どらむ に まく ときに きじゅんせん を しっかり かくにん します。

・そくていき

もの の かたち、おおきさ、おもさ など を すうち で あらわす どうぐ です。

おしだしかこう : のぎす、きんぞくせい ちよくじゃく、とうえいき など

せいけいかこう : のぎす、はいとげーじ など

こんねりあつえんかこう： のぎす、 きんぞくせい ちよくじゃく、 だいやるしっくねすげーじ
けいりょうき(はかり) など

ふくごうせきそうかこう： まきじゃく、 だいやるげーじ など

・そくていき の てんけん

ひんしつ を たもつ ために ひつよう で、 こうせい ずみ の そくていき を つかいます。
がいكانの はそん、 ぜろ てん や うごき を かくにん します。
てんけん が おわった よい そくていき を ただしく つかいます。

・そとだんどり

せいさん せつび を とめずに おこなう だんどりがえ です。

<たぎょう>

・だい、 だいす、 くちがね

おしだしき の ざいりょう の でぐち に とりつける かた です。

・たいこうせい

にっこう(ひかり)、 おんど(ねつ)、 しつど(みず) など の きこう に よる がいكان や
せいしつ の へんかに たえる せいのう です。

・だいすうえる

ごむざいりょう が だい から おしだされた ちよくご に ふくらむ こと です。
おしだしひん の だんめんけいじょう は だいの けいじょう よりも おおきくなります。

・たいやこーど

たいや の けいじょう を ほじする ための ほきょうざい です。
たていと と よこいと が「ひよけ の すだれ」の ように なった おりもの(きじ) です。

・だいやるしっくねすげーじ

ればー を ゆび で おしさげて、 せいひん を はさんで あつみ を はかります。
ぜろてん を あわせたのち、 せいひん を めんちよく に はさみます・
がいしゅう の さいしょうめもり は 0.01mm で、 はり は とけいまわり に まわります。
ちいさな えん の さいしょうめもり は 1mm で、 はり は はんとけいまわり に まわります。

・ためしかこう

せつび で さぎょう の はじめ に かこうひん(しょひん) を つくることが いいです。
しょひん の できばえ を かくにんし、 ふぐあい が なければ、 つづけて かこう を
おこないます。
せいけい かこう、 おしだし かこう、 ふくごう せきそう かこう で おこなう さぎょうです。

・だんせい

へんけい させた ちから を とりのぞいた とき に、もと の かたち や すんぽう に しゅんじ に もどろう とする せいしつ です。

・だんどりがえ

かこうひん の しゅるい や、さぎょう を へんこうする とき の まえじゅんぴ です。
ひょうじゅんしょ、ざいりょう、かた、かこうじょうけん の へんこう だけでなく、
さぎょうないよう の かくにん や せいそう も たいせつ です。

・だんどりがえ じかん

だんどりがえ に かかる じかん です。
だんどりがえ じかん を みじかくする くふう が たいせつ です。

・ちゅうけい せいけい

せいひん の もでる から すがたどり を して、しりこんごむ など の かた を つくります。
この かた に じゅしざいりょう を ながしこんで せいけいします。

・ちゅうにゅう せいけい、とらんすふあー せいけい

みかりゅうごむ を あたためた かながたじょうぶ の ちゃんばー(ぽっと) に おいて、
かながた を しめつける と どうじに きゃびていー に おしこんで せいけいします。

・ちゅーぶ、ごむかん

ほきょうざい は なく、ごむざいりょう で できた ちゅうくう の くだ(ぱいぷ) です。

・ちょうせいさぎょう

ためしかこう で かくにんした できばえ に おうじて、ひょうじゅんしょ に したがって
かこう じょうけん を へんこう します。

・ちょーきんぐ

せいひん が ひかり や ねつ、みず によって れっかし、ひょうめん に じゅうてんざい
が でて、しろい こな を ふいた じょうたい です。

・つうろ

きめられた つうろ を つぎの きまり を まもって、あんぜんに とおります。

①はしりません

②ちかみち を しません

③ぽけっと に て を いれません

④すまほ や けいたいでんわ を しません

⑤おしゃべり を しません

・でいっぴんぐ

えきじょう の ごむげざいりょう に ふくしざい や かた を つけこみ、ひきあげたのちに かねつ かんそうして かためます。

・でいっぴんぐコード(でいっふたん)

たいやコード に せちやくざい を とふして、ごむざいりょう を でいっぴんぐ した ものです。

・でいらいと

せいけいき や さいだんき など の こていばん と かどうばん の きより です。

・でゆるめーたー かたさ

しけんへん に とつきぶつ を おしつけた ときの へこみりょう です。

はかるもの の かたさ により、でゆるめーたー の たいぷ(しゅるい) を かえます。

・てんけん

よごれ や きず、あぶら や みず もれ、おかしな おと が しないか など、ひとつ ひとつ ていねい に かくにんし、しきこしょう して、けっか を きろく します。

まいにち、しぎょうまえ に てんけん します。

・どくりつきほう、くろーずどせる

せる(きほう) が かべ(まく) で しきられて、せる と せる が つながっていない じょうたい です。

・とそう

ひょうめんしより の ひとつで、せいひん の ひょうめん に とまく を つくる ことです。

つや を だす、れっか や へんしよく を ふせぐ などの ために おこないます。

ごむ は しろいので、くべつする ために いろ の しるし を つける こともあります。

・とめる よぶ まつ

「いつもと ちがう、おかしい？」と おもったら、さぎょう を しては いけません。

①さぎょう を とめます。

②じょうし を よびます。

③じょうし が くるまで まちます。

・とれっど

たいや の ろめん に せつする ぶざい で おしだし かこう で つくります。

せいけい かこう こうてい で いろいろな みぞ や きれこみ を いれます。

<な ぎょう>

・7つのむだ

おきやくさま に とつての かし(ふかかし) が ない さぎょう

①かこう の むだ : もの の すがたかたち を ひつよう いじょうに かえる むだ

②ざいこ の むだ : もの を ていたい させる むだ

③つくりすぎ の むだ : もの を ひつよう いじょうに つくる むだ

④てまち の むだ : もの の すがたかたち を かえない じかんの むだ

⑤どうさ の むだ : もの の すがたかたち を かえない うごきの むだ

⑥うんぱんの むだ : もの の いち を かえる むだ

⑦ふりょう てなおしの むだ : もの を まちがった すがたかたち に かえる むだ

・にじかこう

かりゅう を おえた かこうひん に あらためて べつの かこう を おこなう ことです。

ごむしーと の りょうめんと一ふはりかこう や うちぬきかこう、しーるごむ の じょいんと
かこう や たんまつかこう、ぼうしんごむ の しぼりかこう など があります。

・にじかりゅう

こうおん で ちょうじかん かねつする こと により、かこうひん に のこった はいごうざい
など を とりのぞきます。

ぶっせい や すんぼう を あんていさせます。

・にちようひん

ごむひも、わごむ、けしごむ、すべりどめ など、いろいろな にちようひん に ごむ が
つかわれて います。

・につぶ

2ほん の ろーる ひょうめん の かんげき(かんかく) の こと です。

・ぬのまきほーす

ないそうごむ の そとがわ に ぬの を まきつけた ほーす です。

・ねつばん

ねつ と あつりよく を かながた に くわえる きんぞくの あついいた です。

・ねりひんしつけんさ

こんねりされた ごむざいりょう の むーにーねんど や かりゅうとくせい、および ひじゅう や
こうど といった ぶっせい を しけん ひょうか します。

・ねんせい

へんけい させた ちから を とりのぞいた ときに、もとの かたち や すんぽう に もどる
までに、じかん が おくれる せいしつ です。

・ねんだんせい

ざうりょう が へんけい した とき の ねんせい と だんせい の くみあわせ です。

しょうげき を きゅうしゅする(ながす) ねんせい と はねかえす(もとに もどる) だんせい
の りょうほう の せいしつ を もつ こと です。

・ねんちゃくりよく

もの と もの を くっつける ちから ですが、はった もの を はがす ときに ひつような
ちから の ことです。

ねんちゃく とは すぐに くっつける こと が でき、はがす こと も できる じょうたい です。

・のぎす

せいひん を はさみこんだ じょうたい から じょじょに ひろげたり ちぢめたり(せばめたり)
して、せいひん が おちるかおちないか の とき の あたい を よみとり ます。

※のぎす で はさむ ちからが つよすぎると せいかくに そくていが できません。

・のび、のびりつ

しけんへん を ひっぱり、もと の ながさ に たいして のびた ながさ を ぱーせんと で
あらわした もの です。

<は ぎょう>

・ぱーていんぐらいん、ぴーえる

うわがた、なかがた、したがた など に ぶんかつした かながた の あわせめん です。

・はいごうざい

せいひんに ひつような とくせい や ひんしつ を かくほする ため、かこうせい の
かいりょう や ぶっせい の こうじょう など を もくてき として、げんりょうごむ に くわえる
げんざいりょう の こと です。

・はいごうひょう

ごむ の じゅうりょう を 100 と して、はいごうざい の じゅうりょう を あらわした ひょう
です。

はいごうざい の てんかりょう を phr(per hundred rubber) で あらわします。

・ばいやす たいや

かーかす が ななめ(bias) こうご に かさねて はいち されている たいや です。

・はがれ

たいや の かーかす や べると など の せっちゃくふりょう ぶい が はがれます。

・ばぎんぐ

ろーるき に よる こんねりさぎょう に おいて、 しーとじょう に のばされた ごむざいりょう が ろーる に まきつかなくて、 うきあがる こと です。

・ぱっきん

おうふく や かいてん といった うごく めん に つかう しーる です。

・ばっち

1かい の こんねりさぎょう で せいさんされる ざいりょう の たんい です。

・ばっちおふ ましん

こんねりあつえん かこう で つくられた しーと や リぼん を ぼうちゃく しより し、 ひやして かわかした のち、 きめられた ながさ に きって、 おりたたむ きかい です。

・はっぼうごむ

どくりつきほう の ごむ です。

・はっぼうざい

はっぼうごむ や すぽんじごむ の きほう を つくる きたい を はっせいさせる はいごうざい です。

・ばり

かながた の ぱーていんぐらいん から はみだした ごむ や ちゅうにゆうげーと の ごむ です。

・ばり しあげ、 ばり とり

とりのぞく ばり を かくにんし、 きめられた すんぽう に きります。

ばりきり よう の はさみ や にっぱー など を つかって かこう します。

せいひん を きらない よう、 きりすぎ に ちゅうい します。

・ばり とり わすれ

ばり が とり のこされた じょうたい です。

とり わすれ が ないように、 きめられた てじゅん で ばり を とります。

・ばり のこり

ばり が きり のこされた じょうたい です。

きり のこり が ないように、 きめられた ほうほう で ばり を きります。

・ばり ふちゃく

ばり が せいひん などに ついた じょうたい です。

けんさ で ばり とり わすれ、ばり のこり、ばり ふちゃく を みつけたら、ほりゅうひん はこ に いれます。けんさいん が てなおし を しては いけません。

・ばんく

おしだしき の ざいりょう の とうにゆうぶ(ほっぱー) や ろーるき の ろーる の かんげき に できる ごむ の かたまり です。

おしだしりょう を あんていさせて、すんぼう や けいじょう を たもちます。

・はんぱつだんせい りつ

くわえた ちから と はねかえる ちから の ひ を ぱーせんと で あらわした もの です。

・ばんぴんぐ、ぶれっしんぐ

かりゅう の はじめのころ に きゃびていー の くうき や がす を めくため に、かながた を みじかいじかん くりかえし あけしめする こと です。

・ビーど

たいや の かーかす の りょうたん を ほいーる に こてい する ぶざい です。

すちーるわいやー を たばね、ごむ で こーていんぐ して わっか(りんぐ) を つくります。

・ビーどふいらー

たいや の だんめん が さんかけい の かたい ごむ の ぶざい です。

ビーどわいやー の うえ に いれて、ビーどぶ の かたち を ととのえる と ともに へんけい を おさえます。

・ひきさき つよさ

しけんへん を ひきさく のに ようする ちから です。

うちぬきば は おもに きりこみなし の あんぐる がた を つかいます。

・ひじょう ていし そうち

ひじょうじ(きんきゅうじ) に、いしきてき に せつび を とめる そうち です。

「ぼたん を おす」と せつび を とめること が できます。

・ひっぱり つよさ

しけんへん を ひっぱって はだん させる のに ようする ちから です。

うちぬきば は だんべる がた を つかいます。

・ひょうじゅんか

さぎょう ごと に ひつような こうもく を きめて、 むり なく ひんしつ を たもつ こと が できる きじゅん を きめる こと です。

ひょうじゅん と げんじつ の ちがい に きづいて、 かいぜん する ちゃんす が うまれます。

・ひょうじゅんしょ（さぎょう ひょうじゅん）

ぎじゅつ ひょうじゅんしょ、 さぎょう てじゅんしょ、 けんさ きじゅんしょ など が あり、 きめられた ほうほう、 てじゅん を まもって さぎょう する こと が たいせつ です。

・ひょうめんしより

せいひん の ひょうめん を けんま、 とそう や かがくしより など により かこうする こと です。

はろげんかしより(えんそ)、 ふんまつしより(しりか、 たるく)、 こーていんぐしより(しりこーん、 ふっそ) は ごむせいひん の べたつき や こちゃく、 すべり を かいぜん します。

・ぴんほーる ふりょう

ざいりょう や せいひん の ひょうめん に できた ちいさな あな(へこみ) です。

・ふあいなるばっち、Bねり

ますたーばっち に かりゅうざい など を くわえて、 こんねりした ごむざいりょう です。

・ふくごう せきそう かこう

いろいろな ごむ の かこうひん(ぶざい) を はりあわせ、 かた(どらむ、 しんがね) に いれて かねつ、 かあつ して かたち を つくります。

たいや の はりあわせ では かた(どらむ、 しんがね) の かいてん による まきこまれ じこ に ちゅうい します。

はりあわせぶ の いちずれ や はがれ は ひんしつ に えいきょう します。

・ぶだし、 しーていんぐ

ごむ を うすくして、 しよてい の あつみ と はば に のばす こと です。

・ぶっしゅがた ぼうしんごむ

ないとう と がいとう の 2つ の きんぞくせい の つつ の あいだ に ごむ を せつちやく もしくは あつにゅう した ぼうしんごむ です。

・ぶらだー、 かりゅう ぶらだー

かながた ない に そうにゅう された ぐりーんたいや を かあつ および かねつ する ごむ せい の じぐ です。

ぶらだー に かあつ じょうき を いれて ふくらませ、 ぐりんーたいや を かながた に みっちやく させます。

・ぶりーど

れっか ではなく、 ひょうめん に えきたい の はいごうざい が しみだして、 つや が あり、 べたついた じょうたい です。

・ふりくしょんこーていんぐ、 ふりくしょにんぐ

かれんだーかこう で せんい に ごむ を ひふくする こと です。

・ふりくしょんひ

2ほん の ろーる の ひょうめんそくど を くらべた あたい です。

・ぶるーふいんぐ

えきたい の とうか を ふせぐため など、 めの を ほごする ために ごむざいりょう を ひふくする こと です。

・ぶるーむ、 ぶるーみんぐ

れっか ではなく、 ひょうめん に はいごうざい が でて しろく なる じょうたい です。

たいこうせい や すべりせい を こうじょう させる こうか が あるので、 あえて ぶるーむ させた ごむせいひん も あります。

・ぶれーかーふれーと

すくりゅー の せんたん と だい(くちがね) の あいだ に かなあみ と ともに とりつける たくさんの あな が あいた きんぞく の まるい いた です。 ねり が よくなります。

・ぶれーどほーす

ないそうごむ の そとがわに ほきょうざい(いと や きんぞくわいやー) を あみくみ した ほーす です。

・ふれすき、 かりゅう ふれすき

かながた を かあつする ねつばん を そなえた そうち です。

・ふろすていんぐ

おぞん によって れっかし、 ひょうめん の つや が なくなる じょうたい です。

ちょーきんぐ と にています。

・ぶんさん

ごむ に はいごうざい を こまかく ひろく ちらす ことです。

・べると、ぶれーかー

たいや の とれっど と かーかす の あいだ に ある ほきょう ぶざい です。

すちーるべると に ごむ を あっちゃく して つくります。

・へんけい ふりょう

せいひん を あつい うち に かさねる と、ごむ の へこみ や まがり、そり になります。

かなぐ(いんさーと) に つよい ちから を くわえた ばあい も へんけい します。

・へんしん

たいや の かたち が じょうげ や さゆう で ひたいしょう です。

たいや ないぶ で びーど や べると が はくり したり、きれたり して かたち が くずれます。

・ぼいど ふりょう

せいひん の なか に できた おおきな こうどう です。

・ほう れん そう

「ほうこく、れんらく、そうだん」を「ほうれんそう という やさい」に かけた りやくご です。

しょくば の こみゆにけーしょん を はかる ために たいせつ な こと です。

・ぼうじゅん

ごむ ざいりょう や せいひん を ながい じかん あぶら や やくひん に つけたり、じょうきに さらす と、たいせき が ぞうか して やわらかくなる げんしょう です。

・ぼうしんごむ

しんどう が つたわる こと を ふせぐ せいひん です。

「ぼうしん、かんしょう(しょうげき きゅうしゅう)、ぼうおん」の きのう が あります。

・ぼうちゃくざい

みかりゅうごむ が くつつく こと を ふせぐ やくざい です。

こな の ぼうちゃくざい が おおく つかわれて いますが、とびちる こと を ふせぐため に えきたい の ぼうちゃくざい に かわって きています。

・ほーす

がいそうごむ、ないそうごむ と ほきょうざい で こうせい される ちゅうくう の くだ(ぱいぷ) です。おしだしせいけい により つくられます。

・ほごぐ(あんぜん えいせい ほごぐ)

つぎの ような こじん よう ほごぐ(Personal Protective Equipment) が あり、さぎょう ちゅうの じゅうだいな けが や びょうき から からだ を まもります。

あたま を まもる : へるめっと、ぼうし

め や かお を まもる : ほご めがね、ほご めん(しーるど)

みみ を まもる : みみせん、いやまふ

のど や はい を まもる : ぼうじん ますく、ぼうどく ますく

うで を まもる : ながそで の さぎょうふく、うで かばー

てゆび を まもる : ぐんて、たいせつそう てぶくろ、かわ てぶくろ

あし を まもる : あんぜん ぐつ、こう ぷろてくたー

つかう まえに てんけん して、よい もの を ただしく つかいます。

ほごぐ は かならず み に つけて、ぜったい に はずしては いけません。

<ま ぎょう>

・まきむしかりゅう

おしだしかこう された みかりゅうひん を まきとって、とれい に のせて えんとうけい の
たいあつかん の なか で かあつ じょうき で かねつします。

・ますたーぱっち、A ねり

かりゅうざい いがい の はいごうざい と げんりょうごむ を こんねりした ざいりょう です。

・まもう

ごむ が せつしょくしている あいてぶつ の ちいさな おうとつ に あわせて へんけいし、
くいこんで ひきちぎられる ことです。

はぐるま の かみあわせ の ような ものです。

・みえるか

「だれでも ひとめ みて わかる さぎょうば に する」とりくみ です。

もんだい の ある ところ が みんな に みえる ようになり、ひとりひとりが ひんしつ の
よしあし や、せいさんの すすみ ぐあい など の もんだい に きづいて、かいぜん する
ちゃんす が うまれます。

・むーに一ねんど

げんりょうごむ や こんぱうんど の ながれ やすさ を あらわす あたい です。

むーに一ねんどけい により、よねつご の しょてい じかんご の あたい を よみとり ます。

・めやに

やけた ごむざいりょう が だい(くちがね) の でぐち に ついて かたまつた もの です。

せいひん の ひょうめん に きず や すじ を つけて しまいます。

・めんしんごむ

じしん の ゆれ を ゆっくりした おだやかな ゆれ に かえる せいひん です。

ごむ と きんぞくばん を こうご に かさねあわせて つくります。

<や ぎょう>

・やけ ごむ ふりょう

くろいろ の ぶつ で ごむ が やけた(すこーち) もの です。

・ゆうきようざい

もの を とかす ために かがく てきに つくられた えきたい です。

どくとく の におい が あり、ゆうがいせい(どくせい) や きけんせい(いんかせい) が あります。

とりあつかい には、じゅうぶん に ちゅうい してください。

・ゆかめん

つまずき や すべり による てんとう を ふせぐ ため、つぎの こと に ちゅうい します。

① だんさ や けいしゃ ⇒じょうし に ほうこく する

② でこぼこ や ひびわれ ⇒じょうし に ほうこく する

③ らっかぶつ(せいひん や ざいりょう) ⇒らっかぶつ を かたづける

④ みず ぬれ や あぶらもれ ⇒ ぬの など で ふきとる

⑤ くつひも の ゆるみ や くつぞこ の すりへり ⇒なおす、なおした くつ に はきかえる

・ゆにふおみてい

たいや が きんいつでない こと です。

たいや は いろいろな ざいりょう を ふくごうせきそう して つくられる ため、すんぽう、じゅうりょう、ごうせい(へんけい の しにくさ) が ぶぶんてきに ことなります。

その ぶぶん を たいや の そくめん に しるし を つけて ひょうじ します。

きいろ の まる じるし : 「けいてん」と いいれます。

たいや ぜんたい の なか で もっとも かるい ぶぶん です。

あかいろ の まる じるし : 「ゆにふおみていーまーく」と いいます。

たいや の がいいしゅう が もっとも おおきい ぶぶん です。

<ら ぎょう>

・らじある たいや

かーかす が ほうしゃじょう(radial) に はいち されている たいや です。

・らっぴんぐ

「らっぷ」とよばれる すいへいの だい と かこうひん の あいだに けんまざい を
いれて、ちから を かけながら こすりあわせて けんま する かこうほうほう です。
ひょうめん が なめらかで へいたん になり、すんぽう せいど が あがります。

・らばーよけ (よせいた、はーと)

ろーる に まきついた ごむ を ろーる から はがして、うちがわ に よせる いた です。

・らんなー

すぷーる の つぎ に みかりゅうごむ が ながれこむ つうろ(りゅうろ) です。
きやびていー が 2つ いじょう ある ばあい、ざいりょう は らんなー で わかれます。

・りけいざい

ごむ が かながた から はなれやすくする ための やくざい です。
あらかじめ かながた に とふしたり、ざいりょう に はいごうします。

・りさいくる

ごむ の ばり や ふりょうひん を さいりょうする こと です。
こまかく ふんさいして せっちゃやくざい で かためて せいひん を つくります。
ねつや やくひん で しよりして、げんざいりょう として しょうできる みかりゅうごむ に
もどします。

・りさいくるごむ

すくらっぷごむ の なかで さいりょう できる ごむ です。

・りょう ぶそく ふりょう

ざいりょう が たりなくて、せいけいひん の かたち が できて いません。

・れーざーまーかー(いちぎめ れーざーらいん)

たいや の ぶざい に れーざーこう を しょうしゃ して、いちぎめ らいん と します。

・れっか

ごむせいひん の きのう や せいしつ が、じかんの けいか や かこな かんきょう に
さらされて ていかする げんしょうです。
その げんいん は ねつ、ひかり、おぞん、やくひん など さまざま です。
ごむ では、ろうか と れっか は くべつ なく つかわれます。

・れんぞくかりゅう

れんぞくして おしだされる みかりゅうひん を とくべつな かねつそうち の なか を とおして かりゅうする こと です。

・れんぞくきほう、おーぷんせる

せる(きほう) の かべ(まく) が こわれて、せる と せる が つながっている じょうたい です。

・ろうか

ごむせいひん が じかん の けいか と ともに、もろくなったり、ひょうめん に きれつ が はいったり、ねばつき が できる げんしょう です。

おもな げんいん は くきちゅう の さんそ による さんか です。

・ろうかぼうしざい

さんそ、おぞん、ねつ、ひかり など による、こうか や なんか、ぶっせい の ていか を ふせぎます。

・ろーる き (おーぷんろーる き)

2ほん の ろーる で ごむげんりょう と はいごうざい を ねりこむ きかい です。

へいこう に ならべた 2ほん の ろーる に ごむ を まきつける ので、さぎょうしゃ が ごむ の じょうたい を め で みるこ と が できます。

てゆび が ろーる に まきこまれ たり、ないふ で きらない ように さぎょう くんれん します。

①にぎりこぶし で ろーる の だぶりごむ を おす。

②てゆび は ろーる の めんちょう より おくに もっていかない。

③ごむ を きる ときは ないふ を ろーる の した に あててから まきて を うえに おく。

④ごむ が ろーる から はがれない ときは ろーる を とめて から はがす。

⑤かお は はねあがり ごむ が あたらない よう ろーる に ちかづけない。

⑥まきとり ごむ は ひつよう いじょう に おおきく しない。

(めやす:ちよつけい て の ひら いか、ながさ 1m みまん)

⑦まきとり じ は、なるべく ないふ を ろーる めん かぶ に あて、まいて いる て は ばんく から 15cm いじょう はなす。

⑧まきとり ごむ を きる とき は、そえて(ないふ を もたない ほう の て)を ごむ の した に そうにゅう しない。

- ⑨1だい の ろーる で ふたり どうじ に、ひだり と みぎ から ないふ を もって さぎょう を しては いけない。
- ⑩ごむ を きる ばあい、ないふ を さき に あてがい、そえて は あと から もって いく。
- ⑪ないふ は しっかり にぎり、はずれ や すべり に きをつけ、はずれても からだ の かくぶ あたらぬよう みがまえる。
- ⑫ないふ は ひつよう じ いがい、ほるだー、ふれーむ など あんてい した ばしょ に おき、 もったまま さぎょう を しない。
- ⑬ないふ を もっている とき は、じぶん だけ で なく しゅうい の ひと にも、あてぬよう き を つける。
- ⑭まきとり ごむ が ろーる の ごむ に ふちゃく した ばあい は、むり に ひきとろう と せず、さいど まきなおす。

など

— いじょう —

2026ねん 7がつ 3にち かいてい